

よろろう 議会だより



「親子で考えた人権標語」(笠郷小学校)



「夜桜ライトアップを実施」

- 2
- 4
- 6
- 12
- 13
- 14
- 15
- 15
- 16

12月
定例議会



議会QRコード

ホームページ
<http://www.town.yoro.gifu.jp/>

2019.2.1

(平成 31 年)

No.143

143

号

よろろう議会だより

2019.2.1

発行/2019年2月1日 養老町議会 〒503-1392 岐阜県養老郡養老町高田798 TEL0584-3225084(直通) 編集/議会だより編集特別委員会 印刷/盛福印刷機

議会ニュース

議会だより編集特別委員会 竜王町へ視察研修

10月15日、滋賀県竜王町議会広報特別委員会を訪れました。議会広報によって町民が議会と町政に関心を持ってもらうための工夫等を教えていただきました。



産業建設委員会視察研修

11月5日、西濃用水山田支線水路(橋爪地内)の視察後、揖斐川町にある西濃用水土地改良区連合事務所を訪れ、西濃用水についての説明を受けました。



垂井町議会との合同研修会

10月24日、垂井町議会を訪れ、上水道施設及び新垂井町庁舎建設工事現場を視察しました。



「議員と話そう」の報告

11月10日・11日に開催された養老フェスタ2018にて、議会に対するアンケートを実施しました。今回は議員が直接町民にご意見を伺う形式を取り、85人の方にご協力頂きました。大変ありがとうございました。この結果を一覧にして集計し、次号(5月1日発行)に掲載いたします。



総務民生委員長に水谷久美子議員

9月6日付けで青山貞一議員の総務民生委員会委員長辞任に伴い、水谷久美子議員が総務民生委員長に就任いたしましたので、お知らせいたします。

委員	委員	委員	副委員長	委員長
北倉	長澤	早崎	吉田	松永
義博	龍夫	百合子	太郎	民夫

議会だより編集
特別委員会

3月に定例会を開会の予定です。ぜひ傍聴にお越しく下さい。なお、一般質問の日は、ケーブルテレビの収録があります。

(詳しい日程については、「広報よろろう」3月号と町ホームページでお知らせします。ご不明な点は、議会事務局までお問い合わせください。)

「わたしの声」を待っています。役場ロビーに意見箱を設置してあります

「わたしの声」の宛先は

〒503-1392 養老町高田798番地 養老町議会事務局内
TEL (0584) 32-5084 (直通) FAX (0584) 32-1812
メールアドレス:14gikai@town.yoro.gifu.jp



12月定例会

本会議（議場）における主な質疑内容

平成30年第4回定例会が、12月17日から27日までの11日間の会期で行われました。

初日（17日）は、条例の一部改正など19議案の提案理由の説明があり、うち一件の工事請負契約の締結について可決しました。他18議案についてはそれぞれ総務民生委員会及び産業建設委員会に付託しました。また一件の専決処分報告を受け、一件の専決処分を承認しました。さらに、広域連合議会議員の選挙を行いました。

2日目（26日）は、6議員が一般質問を行い、ケーブルテレビ収録がありました。最終日（27日）は、総務民生委員長及び産業建設委員長から付託された議案についての審査報告があり、初日に提案理由の説明があった18議案と議員発議による平成30年度一般会計補正予算についての付帯決議について可決しました。

専決処分の承認

●一般会計補正予算

問 養北子ども園新園舎建設の工事請負費（平成30年度分）を大幅に減額した理由は。

答 9月議会では出来高の積算時間が無く、今年度分の出来高を4割と見積もっていたが、入札前に出来高を見直したところ、1割程度しか進まないことが分かったため。

問 減額による工事への影響は。

答 平成31年度の前払い金の請求が直ぐにできるため、工事の進行に影響はない。

条例等の一部改正

●養老町認定こども園 条例の一部改正

問 上多度子ども園の廃園に伴い、めぐみ保育園が5歳児を受け入れることについて、地元への説明責任は。

答 地元には数回訪れ、ご理解を頂いている。

問 めぐみ保育園で運動会等をやる場合、狭いことに対する指導内容は。

答 園小交流の時に上多度小学校から協力できる場所は協力するところは協力するところ、聞いています。

町道路線の廃止

問 橋の通行が危険と判断した理由は。

答 今回の入札参加資格要件の主なものは、

答 2件の橋はコンクリートスラブでできている、一部が変形し、車両が通行できないため。

問 老朽化に伴う今後の対応は。

答 町内570基の橋の点検を5年サイクルで行っており、落橋の危険があると判断した場合は同様の対応もあると思うが、なるべく早期に予防していきたい。

契約の締結

●養北こども園新園舎建設 工事請負契約の締結

問 事後審査型案件付き一般競争入札における、具体的な審査箇所は。

答 事後審査型案件付き一般競争入札における、具体的な審査箇所は、

経営規模等評価結果通知書、総合評価値通知書の総合評価値、入札参加資格者名簿に登載されていることや、本店を県内に有していることなど。

問 事後審査型案件付き一般競争入札の最大のメリットは。

答 一般競争入札は入札参加者全員に参加資格確認申請書を提出してもらう必要があるが、事後審査型は落札候補者のみが提出をすればよく、入札参加者等の事務の軽減ができる。

問 設計監理業者名及び予算額は。

答 監理業者は（株）岬建築事務所、予算額は2箇年で768万4000円。

民生委員会へ 総務委員付託議案

問 養老町職員の給与に関する条例の一部改正

答 本条例に該当する職員数は。

答 平成30年4月1日現在、一般職が2600人、再任用職員が8人。

問 養老町公民館設置及び管理に関する条例の一部改正

問 上多度公民館の使用料や免除団体は他の公民館と同等か。

答 各地区の公民館と同等であるが、以前は建物が高いため、安い料金体系を使用していた。

●養老町自治会館の設置及び管理に関する条例の一部改正

問 通称名「上多度プラザ」の明示箇所は。

答 通称名は条例等には入っていないが、施設への入口の扉に表示されている。

問 養老町認定こども園 条例の一部改正

問 上多度こども園からめぐみ保育園へ移行する人数は。また、めぐみ保育園の対応は。

答 上多度こども園の現5歳児は24人。めぐみ保育園の対応は、部屋を増築したり、上多度こども園と連携しながら幼稚園等運営のノウハウを学んでいる。

●平成30年度一般会計補正予算

問 下笠野崎公民館のコミュニティ助成事業費と地元負担は。

答 総事業費3500万円程に対し、（財）自治総合センターが実施するコミュニティ助成金が1500万円、

残りは地元負担。

問 あゆみの家の障がい者共同生活援助施設の場所と規模は。

答 場所は養老町橋爪別所地内。建物の規模は鉄骨2階建て、面積280㎡、定員7名。総工事費は7759万8000円。

問 小学校エアコン整備事業の国と町の予算配分は。また、町の起債期間は。

答 国の交付金は、基本的に3分の1であるが、対象面積×基準単価を用いるため、実質は1割強である。残りは町の起債であり、償還期間は15年。

問 エアコンフィルターのメンテナンス方法は。

答 メンテナンスとしてはフィルターを掃除程度であるため、教職員で行う。

産業建設委員会へ 付託議案

●平成30年度一般会計補正予算

問 養老公園夜桜ライトアップ事業は、県と町のどちらが先導しているのか。

答 県から当町に声掛けがあったものであるが、県との協議において、当町にはライトアップの資機材や実施ノウハウもあり、県にも応援いただけるということから、町で実施することとした。

問 養老公園夜桜ライトアップ事業の負担割合が県31、町69となっている事に対する担当課の考えは。

答 電気等は県営の養老公園から借りる部分もあるため、補助

割合だけでは一概には言えないと考える。

問 夜桜ライトアップの実施場所は。

答 天命反転地と楽市楽座養老付近と、養老公園の入り口から楽市楽座養老までの側道の桜の帯を考えている。

問 夜桜ライトアップ事業の予算内訳は。

答 電飾の設置に1000万円弱、公園内の警備に500万円ほど、残りは昼間から夜間にかけてのイベントの運営費など。

問 養老駅から桜通りのはんぼりの管理者は。

答 ほんぼりの管理は企業誘致・商工観光課で行っている。また一部公園内の維持管理は観光協会に協力頂いている。

問 夜桜ライトアップ事業に掛かる経費を抑える努力は。

答 本予算を計上するにあたり、複数のイベント業者から見積りを徴取して作成した。

問 夜桜ライトアップ事業のPR方法は。

答 新聞折込で西濃地区にチラシを入れたり、メディアに載せることを考えている。

問 夜桜ライトアップ事業に対する来年度の県の補助金は。

答 来年度については未定であるが、町から引き続き要望していきたい。なお、県では2020年の養老公園開園140周年に向けて、ライト等の常設を検討すると聞いている。

議案	平成30年度養老町一般会計補正予算	内容 3億8,796万9,000円を増額し、予算の総額を112億5,122万3,000円とする。 (主な増減の内訳) 重度心身障害者医療事業 2,191万9,000円 観光事業振興費 1,866万6,000円 小学校校舎等施設整備事業 3億5,783万円	採決 賛成全員で可決
議案	平成30年度養老町国民健康保険特別会計補正予算	内容 226万円を減額し、予算の総額を35億646万2,000円とする。 (主な増減の内訳) 国保関係職員費 ▲259万円	採決 賛成全員で可決
議案	平成30年度養老町上水道事業会計補正予算	内容 収益的支出を369万2,000円増額し、予算の総額を4億4,169万2,000円とするもの	採決 賛成全員で可決
議案	平成30年度養老町公共下水道事業特別会計補正予算	内容 337万9,000円を減額し、予算の総額を3億8,362万1,000円とする (主な増減の内訳) 職員費 ▲258万4,000円	採決 賛成全員で可決
議案	平成30年度養老町農業集落排水事業特別会計補正予算	内容 歳入予算の補正(増減の内訳) 繰入金 ▲7万7,000円 諸収入 7万7,000円	採決 賛成全員で可決
議案	平成30年度養老町介護保険事業特別会計補正予算	内容 2,576万8,000円を増額し、予算の総額を29億5,859万9,000円とする (主な増減の内訳) 施設介護サービス給付費負担金 867万2,000円 特定入所者介護サービス費負担金 507万8,000円 介護予防・生活支援サービス事業 730万5,000円	採決 賛成全員で可決
議案	平成30年度養老町介護サービス事業特別会計補正予算	内容 87万1,000円を増額し、予算の総額を1,607万1,000円とする (主な増減の内訳) 介護予防支援事業 87万1,000円	採決 賛成全員で可決
議案	平成30年度養老町後期高齢者医療特別会計補正予算	内容 33万8,000円を増額し、予算の総額を3億1,873万8,000円とする (増減の内訳) 後期高齢者医療広域連合納付金 33万8,000円	採決 賛成全員で可決
発議	平成30年度養老町一般会計補正予算に対する付帯決議	内容 養老公園夜桜ライトアップ事業については、事業内容を関係機関、行政、議会、地域住民が熟議し、今後の方針も含め十分な説明責任を果たしてから執行すること。また、協議内容や進捗状況等の報告を議会に対して適時行うこと。	採決 賛成多数で可決

平成30年度養老町一般会計補正予算に対する付帯決議 議員の賛否													
議員名	北倉 義博	岩永 義仁	長澤 龍夫	大橋 三男	三田 正敏	吉田 太郎	早崎百合子	野村 永一	田中 敏弘	松永 民夫	林 輝見	青山 貞一	水谷久美子
(○賛成、×反対)	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	×	×	○

ほかにこんなことが決まりました

報告	専決処分の報告(損害賠償の額の決定)	内容 事故の概要 公用車を訪問先車庫駐車場に縦列駐車しようとした際、停車中の車両前部に接触 損害総額 26万8,680円 (町の過失100分の100)	
承認	専決処分の承認(平成30年度養老町一般会計補正予算)	内容 (増減の内訳) 養北こども園新園舎建設工事 工事請負費 ▲1億6,560万円 債務負担行為 1億6,560万円	
議案	養老町議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正	内容 職員の給与が国に準じて改正されることに伴い、議員の期末手当を改正するもの	採決 賛成全員で可決
議案	養老町特別職の職員の給与に関する条例の一部改正	内容 職員の給与が国に準じて改正されることに伴い、特別職の期末手当を改正するもの	採決 賛成全員で可決
議案	養老町職員の給与に関する条例の一部改正	内容 国家公務員の給与改正に準じ、職員の給料表、勤労手当等を改正するもの	採決 賛成全員で可決
議案	養老町公民館設置及び管理に関する条例の一部改正	内容 平成31年2月25日をもって上多度公民館を新施設に移転するため所要の改正を行うもの	採決 賛成全員で可決
議案	養老町自治会館の設置及び管理に関する条例の一部改正	内容 上多度公民館の移転に伴う、上多度自治会館の移転について所要の改正を行うもの	採決 賛成全員で可決
議案	養老町認定こども園条例の一部改正	内容 平成31年3月31日をもって上多度こども園を廃止するため所要の改正を行うもの	採決 賛成全員で可決
議案	町道路線の廃止	内容 小倉下笠4号線など2路線	採決 賛成全員で可決
議案	町道路線の認定	内容 高田187号線など5路線	採決 賛成全員で可決
議案	岐阜県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙	内容 養老町長 大橋孝 当選	採決 賛成全員で可決
議案	養北こども園新園舎建設工事請負契約の締結	内容 契約方法 事後審査型条件付き一般競争入札 契約金額 4億4,604万円 契約相手方 養老郡養老町大巻4590番地(株)大橋組 工事概要 鉄骨造平屋建て 建築工事・電気設備工事・機械設備工事・外溝工事等	採決 賛成全員で可決
議案	平成30年度養老町公共下水道事業特別会計の繰入れの変更	内容 変更により減額する額 337万9,000円 変更後の繰入れ総額 2億4,305万7,000円	採決 賛成全員で可決
議案	平成30年度養老町農業集落排水事業特別会計の繰入れの変更	内容 変更により減額する額 7万7,000円 変更後の繰入れ総額 2,329万9,000円	採決 賛成全員で可決



◆ 田中 敏弘 議員

問 「ごみ減量化推進協議会」があるが、この問題について対策・議論が必要と思うが。

答 当町はじめ南濃衛生施設利用事務組合、関係市町においてごみ減量化について重点的に進めている。また「ごみ減量化推進協議会」では重要課題として協議してきた。

問 「レジ袋禁止条例」制定の考えは。

答 他市町の対応を見極めながら条例等研究していく。

中身を使い切って、きれいに洗って出してください



対象となるものは、プラマークが目印です

※プラスチック製品でも、プラマークのないものや汚れているものは「燃やせるごみ」に出してください
 ※「プラスチック製容器包装」が「燃やせるごみ」か、迷う場合には「燃やせるごみ」として出してください

プラゴミのマーク

スマート農業推進を

町長 今後推進に向け検討

問 県主催の「ぎふスマート農業推進セミナー」や「岐阜県スマート農業推進検討会」が開催されているが参加し情報収集されているか。

答 参加していないが、「岐阜県スマート農業水管理省力化検討会」に出席し情報収集している。今後も参加しスマート農業推進に向け検討していく。

問 農業者の高齢化対策や新たな担い手の確保など今後の農業を推進する上で、不可欠なものがあると考えている。

答 スマート農業に対する町の基本的見解は。

ロボット技術や情報通信技術を活用して省力化や精密化などを進めた次世代農業をスマート農業と言う。農林水産業、食品産業分野では担い手の減少、高齢化の進行等により、労働力不足が深刻な問題となっており対策として農林水産省はスマート農業実現に向け検討を進めている。

町長 循環型社会の構築目指す

廃プラ 対応策は！

現在環境に優しい循環型社会（脱プラスチック）を目指し国や企業の動きが加速している状況である。背景にはプラスチックゴミによる生き物への相次ぐ被害と破綻寸前のリサイクルにあると思われる。我が国はこれまで、プラスチックを資源として中国に輸出してきたが、中国が国策により輸入禁止となり大量のプラスチックが行き場を失う事態となっている。



町長当選証書授与

養老ICの検証と経済効果は

町長 効果はあると考える

問 利用台数は。

答 上下線合わせ、養老ICは1日約1000台、養老SAスマートインターは1日約1500台、最大約1700台の利用があり、順調に伸びてきている。

問 経済効果もたらされたか。

答 交通アクセス向上や1300年祭開催の相乗効果により観光入込客数は昨年112万人、本年110万人を超える見込みで、観光振興に効果があり、今後の地域の活性化に繋がりたい。

問 念願の養老ICができ、様々な面でプラスになると思われるが、養老ICが開通し検証を行ったか。

答 開通に伴い、所要時間の短縮、渋滞の回避が可能となり、ドライバの労働環境改善に寄っていると聞いている。

町長 課題に積極果敢に取り組む

2期の総括と3期展望は

問 町長1期目マニフェストで大きく8項目を掲げ「養老が一番」、2期目では「誰もが輝くまち養老」と4項目にわたり推進された。

答 町長1期目マニフェストで大きく8項目を掲げ「養老が一番」、2期目では「誰もが輝くまち養老」と4項目にわたり推進された。

問 町長2期8年の総括についての所見は。

答 町民一人ひとりが住んで良かったと感じ、事業推進を図ってきた。1期目まちづくり基本指針「養老町第五次総合計画」を策定し、次世代に夢の持てる将来を意識した町政運営に努力した。2期目後期・農業計画はもとより「新生養老まちづくり構想」を策定し、養老改元1300年プロジェクト事業

を中心に行った。定住促進対策「住みたくなる養老」を目指したまちづくりに取り組んだ。良好な交通アクセスを活かし企業誘致等も積極的に展開している。

問 町長3期目町政運営についての抱負は。

答 課題を一つひとつ積極果敢に「変化への挑戦」として取り組んでいく。行財政の健全化、防災体制の整備強化、町民との「協働」、金融機関・企業との連携各種団体と協力し、多様な課題解決に全力で取り組んでいく。



◆ 早崎百合子 議員

問 予約型乗合バスと予約不要で定時定路線化を併用する考えは。

答 セミデマンドバスと併用等を

問 「通院利用で便利」、「利用の仕方を知らない」、「予約が面倒」など。

答 町外の拠点として、

問 近隣自治体の広域的な移動手段確保のため、バス停243箇所内、町外のバス停は。

答 養老鉄道の美濃津屋駅・駒野駅・友江駅

問 オンデマンドバスについての主な意見は。

答 計画の中に取込み、検討する。

問 名阪近鉄バス停留所の留所の計7箇所を設置している。

答 留所

町には、養老鉄道、路線バス、オンデマンドバス、タクシーがあり、町民の暮らしに必要な移動手段の確保、外出しやすい環境づくりを目指し進められ、町民のニーズにおける業務の環境として、8地域で懇談会が開催された。

- ・ 名阪近鉄バス停留所の留所
- ・ 海津市今尾
- ・ 大垣市十六町
- ・ 輪之内町塩喰
- ・ 海津市コミュニティバス

町長 2年計画で策定

地域公共交通網 形成計画は

※セミデマンドバスとは、オンデマンドバスの利用状況に応じて、まとまった移動ニーズがある時間帯、経路を把握し、概ねのルートを設定し、その運行に人を集めるように予約を組み立てていく運用方式（この場合も、予約は必要）



オンデマンドバス

行政バス利用は

町長 工夫すれば対応可能

問 今後の利用は、各種団体活動に影響はないか。

答 廃止後も26人定員のバスはあり、大型バンと併用するなど工夫すれば、十分対応は可能である。

問 42人定員バスの今後は。

答 導入から22年が経過し、故障箇所によっては運行できない可能性がある。今後維持管理面、当町も含め近隣にバス運行事業者があること、近隣自治体のバス保有台数等を総合的に判断し、廃止する予定である。

現在42人定員と26人定員の行政バスが運行され、行政視察や各種団体の研修・会議の際には、大乗利用度が高かったと理解しているが、平成31年3月31日をもって行政バス42人定員が廃止になり、更新はしない。



◆ 松永 民夫 議員

圃場整備への対応は

町長 実現させたい

問 養老町の圃場整備率の現状と今後で再編整備の話し合いが進められているが現状と費用の負担は。

答 圃場整備率は52・7%、大区画圃場整備率は5・1%で目標は近隣市町並みの69・7%。農地バンクの基盤整備事業を活用し、室原地区・大野地区が推進している。また、県単事業の「経営体育成基盤事業」の実施に向け大巻地区が取り組んでいる。事務費

養老町の圃場整備は昭和40年代の整備が多く、用排水分離がされていない。大規模経営に見合う圃場整備が必要である。

等は土地改良区で負担すべきと考えている。



上多度東部の大区画圃場

問 土地改良区の合併の進捗状況は。

答 旧六ヶ村のほか、上多度東部・南濃北部・下池西部が平成32年4月の合併に向け協議している。また五三と大場新田、高田と烏江においても合併に向け協議が進められている。

作業所で喫茶店運営は

町長 県との協議が必要

問 そよ風教室の利用状況と進路先は。また、東部中学校下の設置の考えは。

答 11月の利用者数は、高田教室が31名、飯田教室が26名。進路については町内の通常学級が17名、特別支援学級が3名、大垣特別支援学校が1名となっている。現時点では支援体制は十分整っているため、東部中校下への考えはない。

問 養老町福祉作業所は生活介護事業所であるが、利用者のほとんどは作業に従事している。作業の充実を図るため喫茶店の運営を考えているが、国・県の補助金の対応は。

平成30年3月に「第2次養老町障がい者プラン」が策定され実現に向け推進されている。

答 国の「社会福祉施設等整備費補助金交付要綱」に基づき、国が2分の1、県が4分の1。今後は喫茶店型事業所の事例を参考に、事業内容が具体化した段階で県との協議が必要と考える。



◆ 岩永 義仁 議員

答 インフラ整備や企業誘致、1300年祭での知名度アップにより人口増も期待できる。

答 大規模修繕費や教職員の人件費を除いて年間4千万円ほど。

問 少子化による児童数減少の問題に対応していくためのビジョンはあるか。

問 1つの小学校当たりのコストは。

答 町の推計人口が1万7千人ほどとなる2040年には維持が困難。

答 当面は現在の小学校区の維持を図っていく。

問 2つの学年を1クラスにするといった複式化等をせずに何年先まで現在の体制を維持できるか試算はあるか。

問 近い将来、現在の小学校数を維持していくのは極めて困難と考えるが統廃合の考えは。

急激な人口の社会的減少と少子化により養老町では全学年が1クラスしかないという小学校が7校中4校となっている。町では今後も引き続き児童数の大幅な減少が見込まれる。



学校の教室

町長

現在の校区を維持

少子化による

小学校統廃合は

3セク会社からの撤退は

町長 考えてない

答 3セク会社へ出資している企業の計画に乗れば、3セク会社はやがて大きな意味を持つことになる。撤退は考えていない。

他に、公金取り扱いの不適切処理についての質問もしました。

問 人件費すら発生していない開店休業状態なので、撤退について模索していたきたい。

答 3セク会社へ出資している企業の計画に乗れば、3セク会社はやがて大きな意味を持つことになる。撤退は考えていない。

問 撤退の手続き方法は。

答 撤退となっても出資金の返還はありえず、株式の譲渡になるが取締役会での承認が必要。

問 設立から年数が経過しているが、実績のない状態である。町民の大切なお金である出資金が回収できる間に3セク会社からの撤退を提案する。

まちづくりを担うとして官民出資により設立された「養老の郷づくり会社」は、目立つ事業展開がないまま約4年が経過している。現在確認できる事業は、既に町内で別の企業もやっている水の販売くらいである。

問 国保連に資料を依頼したがシステム対応がなく、妊婦当該加算額の自己負担額助成は、考えていない。

答 国保連に資料を依頼したがシステム対応がなく、妊婦当該加算額の自己負担額助成は、考えていない。

問 産後半年までの助成を対象に産後指導士によるケア事業の新設を提言するが。

答 国が定める産後ケア事業実施担当者基準は、国家資格を有する者で補助対象外の事業は、町単独では厳しい。県・西濃圏域市町・医療機関など広域的な環境の中で検討したい。

問 妊婦加算分の対象者に町単独で助成できないか。また、「妊婦女性医療費無料化」を実施している自治体に学び養老町も検討されたい。

答 国保連に資料を依頼したがシステム対応がなく、妊婦当該加算額の自己負担額助成は、考えていない。

問 国が定める産後ケア事業実施担当者基準は、国家資格を有する者で補助対象外の事業は、町単独では厳しい。県・西濃圏域市町・医療機関など広域的な環境の中で検討したい。



保健センターでの健診の様子

妊婦・産後ケア事業の新設を

町長

広域的な事業実施環境が必要

問 自治体の憲法と云われる「自治基本条例」の策定が先送りになっていないか。

※岐阜県水道事業広域連携研究会とは、水道事業を安定的に運営するための県の組織。会長は、県健康福祉部業務水道課長、委員は、岐阜県並びに42市町村水道課長。

答 町政運営の三割が町民税の税収であり、法令等に基づき滞納整理をしている。町内外の納税者に臨宅による滞納整理を実施していく。

答 「岐阜県水道事業広域連携研究会」での部会は、三回開催されているが町の水道事業方針を転換する協議に至っていない。

問 投資的支出を控へ、住民福祉の義務的経費を削減しないため、税の未納対策に抜本的な対応が求められるが。

問 水道法の改正に受益者、水道事業者が懸念を示している。重要案件であり方針や進捗など、速やかに公開されたい。

町政の課題が山積する中、納税・自治基本条例・水道法改正について町長の見解を求める。

答 まず未設置の地域での「地域自治町民会議」を立ち上げ、協働のまちづくりに取り組む。

町長

人口減が最重要課題

町政三課題への対応は



◆ 水谷久美子 議員

議会改革特別委員会と消防団との意見交換会 結果報告

意見交換会とは、議員が各種団体の意見や要望を伺い、今後の議会活動に活かしていくことを目的とするもので、募集は強制ではなく、自主的な参加を呼び掛けるものです。

今回は消防若手団員（1期～3期程度）と議員との意見交換会を開催させて頂くこととなりました。

平成30年11月18日 午前10時より
養老町役場4階大会議室にて開催

議会改革特別委員会

委員長：岩 永 義 仁
副委員長：田 中 敏 弘
委員：青 山 貞 一
林 輝 見
三 田 正 敏
大 橋 三 男

操法の練習について

1. 現状週3回時間平均3Hは多すぎる。
2. 操法の練習よりも実戦を想定した練習を多くして欲しい。

消防団の運営について

1. 上意下達が多すぎる。
2. 団員の年齢について40代、50代も対象に
3. 水防・消防と分離した団運営を
4. 団行事について、時間的ロスが多い
5. 行事の際、来賓者のあいさつが多い、長い

報酬（手当）について

1. 全部団の運営にあてる
2. 報酬は個人に支払い、個人から団へ上納する
3. 団の運営費が少ない
4. 団員の出勤の対価が少ない
5. 時間の長さに対する手当が少ない

はしご

1. 消防団とは別の組織で運営するのが良いと思う
2. とびはしごの活動費は明確に運営されているのか？

その他

1. 今回のような意見交換会を今後も続けて開催を望む
2. 任期を一律にしてほしい
3. 出不足について不公平状況である
4. 団行事の際、不効率（早く集合しても待ち時間が長い。もっと効率的に）
5. 非常時出勤だけ専門的に人選する
6. 消防団について各家庭に理解を得る
7. 消防審議会が行ったアンケートの報告がない
8. 葬儀の服装指定がおかしい



今後も議会と各種団体との意見交換会を開催する予定です。

総務民生委員会視察

10月11日～12日

「廃校利用について」(兵庫県佐用町)

佐用町は、町村合併後の学校規模の適正について、平成23年より学校の統廃合を進める特別委員会を設置し、学校規模適正化会議にて中学校1校、小学校4校、保育園6園の廃校廃園を決定しました。

平成25年からは庁舎内のプロジェクトチームにて跡地利用についての検討を始め、利活用の大枠として、体育館及びグラウンドは地元にて利用してもらうこと、校舎は無償貸し付けとすることと決定しました。なお、先進的な自治体では事業者に対し億単位の支援をしているということです。

公募をしたところ14団体から応募があり、平成29年4月にはすべての事業者が決定しました。過度なことをせず、地域の思いも入れながら進めたのがよかったということです。



参加委員
水谷久美子 (委員長)
吉田太郎 (副委員長)
青山貞一
松永民夫
野村永三
大橋義永

「税の徴収について」(奈良県広陵町)

広陵町は、昭和58年に大規模な住宅団地ができ、人口が増加し続けており、現在、人口の半分を住宅団地住民が占めています。

徴収については、収納債権管理の一元化、コスト意識の定着、徴収職員と納税者の意識改革に取り組んでいます。収納債権管理の一元化については、現年度優先、延滞金の完全徴収を目標とし、税の納税相談を通して税よりも私債権を優先的に納めてもらっています。また、コスト意識の定着については、督促手数料50円を150円に改定したことで、町民に納期内納税の意識が備わったと感じているそうです。

広陵町では、差押えも年間300件ほど実施しており、法律を正しく守ることが徴収率を上げることになるということを言われていました。



産業建設委員会視察

10月22日～23日

「農業振興について」(石川県能美市)

能美市は、手取川の扇状地に位置し、古くから土地利用型の農業が行われています。現在、基盤整備の整備率は92%ですが、近年、施設の老朽化が進んでいるため、順次国の補助、制度を活用して補修に取り組んでいるということです。

土地改良区については、能美市土地改良区と手取川宮竹用水土地改良区の2つがあり、能美市土地改良区では、過去に事務の合理化、効率化を目的に合併をされましたが、予算の一元化はされなかったため、今現在も賦課金は各管理区ではばらばらの状態が続いています。

排水機場としては、宮竹用水土地改良区に2箇所あり、市が電気代として年間50万円と幹線維持費として900万円を補助しています。



参加委員
北倉義博 (委員長)
林輝見 (副委員長)
田中敏弘
早崎百合子
三田正敏
長澤龍夫

「土地改良について」(石川県中能登町)

中能登町は、水田の単作地帯に加え、近年では園芸も行われています。中能登町には土地改良区は存在せず、現在の大区画整備率としては74.4%であり、県平均と比較しても大きく遅れている状況です。また、水不足に悩まされる地域であるため、ため池が104箇所あり、ポンプアップで水を上に送っています。

また、東馬場地区では、地下灌漑システム「フォアス」を取り入れています。フォアスとは、水田の下に水管理システムを設置するもので、表土の下10センチに水が溜まっている状態になります。フォアスにより1等米の比率が増えましたが、水を張らないことで雑草が増えるため、維持管理費がかさむというデメリットもあるということです。



このシリーズは、過去の定例会（今回は平成29年12月議会）での一般質問に関して、その後の状況をお知らせするものです。



「公金クレジット
収納は」

問 クレジット収納は多くのメリットがある。県内では岐阜市・大垣市をはじめ、多くの市町村が導入している。養老町の導入への考えは。

答 町では、税金等の支払いを推奨している。クレジット収納については、今年度から調査を始めている。クレジットの導入については電算システムの改修や手数料、他市町での利用状況、コストや効果面など鑑み検討していく。

「うなりました」

町では、クレジット収納について調査・検討した結果、インターネット環境があれば場所を問わず24時間いつでも納付できることから、クレジット収納を導入することとしました。

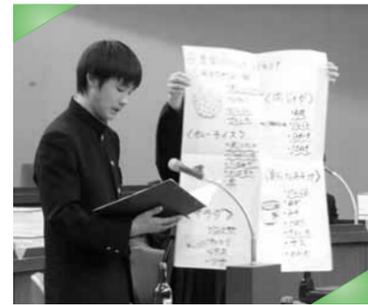
平成31年度からは、全ての町税について、納期限内に限り、インターネットを利用したクレジットカードによる納付ができるようになりますので、より納付しやすい環境を整えられ、利便性が向上します。

カードご利用の際には、手数料が必要となることや、口座振替の方が利用される場合は、事前に手続きが必要となりますので、詳細については、広報養老や町ホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

平成30年12月5日 午後4時より 養老町役場4階議事堂において



第2回養老町子ども議会が養老町役場議事堂で、開催されました。
高田・東部両中学校の3年1名ずつが議長となり、また、各クラスの代表2名ずつ合計16名が議員になり、養老町の将来について自分たちの考えを提案発表しました。各中学校2年生の生徒及び先生、保護者の方、町議会議員など、大勢の方が傍聴をされました。
生徒は昨年度作成された「ふるさと養老テキスト」の学習を通して学んだことや、公民館交流で高齢者の方と交流したこと等を夏休みも活用し、調査・研究してきました。



中学生の主な意見・提案

- ・ 養老町の課題を考えて。
- ・ 高田商店街の活性化に向け、空き店舗の貸出や企業誘致を行うことはどうか。
- ・ 養老町の観光について、目的別・対象別に観光ルートを作成しては。
- ・ 養老の食文化を紹介し販売する地産地消をテーマにした農業レストランを作っては。
- ・ 町民の防災意識が高めら

第2回目となる今回は、中学生が各クラスで話し合いを重ねまとめた意見や提案を発表し、それに対し、町の担当課より現在取り組んでいることを踏まえ、参考にできることなど感想を述べるという形をとりました。



- ・ 福祉作業所体験を通して感じた町民全員で取り組む環境美化について。
- ・ 自転車通学全員許可制の取組から、交通ルールや交通網の整備を
- ・ 多数の意見を発表してくれました。

どの生徒も緊張しながらも元気に堂々と発表し、実物放映機や書きの地図などを使用し、中学生らしく分かりやすい内容のものをしました。



中学生の感想

- ・ 緊張しましたが、「思いを伝えたい」「養老町をもっと良くしたい」という気持ちで発表しました。
- ・ 他のクラスや中学校の意見を聞き、改めて養老町の良さを知り、誇りが持てました。
- ・ 各課長のお話を聞き、町の対策や政策、行政についても学ぶことができました。
- ・ 下調べをしっかりとし、明確なねらいや提案内容であることが大切だと思いました。
- ・ 私たちの提案が少しでも参考になり、反映されることを期待します。



中学生の皆さん、大変緊張されたかと思いますが、貴重な体験となったことでしょうか。また私も色々な意見が聴けて刺激を受けました。ありがとうございました。
(議長)

・ 私たちは少しずつ成長し、できることも増えていくので、町のイベントやボランティアに参加したいと思いました。
・ 町民の一人として、どうしたら活気ある町になるのかを今から考えていきたいです。

議会に対しての意見

このシリーズは、町内の各種団体の代表や副代表等の方へ、編集委員が意見をお聞きし、その記事を掲載するものです。

■ 住民の声 ■

(町内在住 Y・Kさん)

近年、地方議員の「なり手不足」「資質の低下」が問題視されています。人口の減少と高齢化が進む中で議員の後継者がいない、議員報酬が低額であること、兼業がしにくいことによる立候補者不足及び地方行政への関心の低さや不信感等が要因であると言われています。

わが養老町でも将来を担う若手議員が少なく、また議員の行動・言動等資質に問題がある事象が散見されます。人口減少という現状と財政不足に鑑みると議員定数の削減改革が必要であるように思われます。

一人当たり報酬の向上を図り、議員活動の基盤を強化し、議員は町民の負託に応えるという基本に立ち戻り、利権にとらわれることなく将来を見据え、危機感を持ちながら、さらに切磋琢磨して議会の活性化を図っていただきたいと切望します。また、町民もしっかりと監視監督していくことが重要であります。

